



TOHOKU  
UNIVERSITY

# NEWS LETTER



TOHOKU UNIVERSITY SCHOOL OF DENTISTRY

2017.7

Vol.  
15

## ニュースレターの発行にあたって

東北大学 大学院歯学研究科長・歯学部長 佐々木 啓一

2017年も半ばとなりましたが、ニュースレターを久しぶりに皆様にお届けできることとなりました。

さて、東日本大震災以降、東北大学は懸命に復興、さらには新たな事業展開に努め、教育研究の充実を図ってきました。歯学研究科・歯学部としても、建物・施設の整備はもちろんのこと、①“生物-非生物インテリジェントインターフェイス(平成24-27年度)”, ②“マルチモーダル歯学イノベーションプログラム(平成25-29年度)”, ③“法医・法歯・法放射線シナジーセンタープロジェクト(平成27-31年度)”と、3つの文部科学省特別経費をはじめ、文部科学省、厚生労働省等から数々の補助金事業を獲得し、東北大学としてのアイデンティティを強く意識した教育研究の整備、充実を図ってきました。教職員、大学院生の方々には大変なご尽力をいただき、研究業績、国際交流実績、科研費等の競争的外部資金の獲得等は顕著な増加を見えています。

しかしこの間、大学改革の流れが一層進み、大学そして歯学研究科・歯学部を取り巻く環境が激変しています。まずは平成25年から26年に行われたミッションの再定義があります。これは、全ての国立大学の各学部が、それぞれの大学の特性、これまでの実績等に基づき、今後果たすべきミッションについて文部科学省との協議のうえで再定義したものです。歯学は、医学系とは別に、保健系として薬学、看護との括りでもまとめられ、各大学の色分けがなされました。私どものミッションは、「世界をリードする研究者養成、バイオマテリアル・歯学再生医療等の異分野融合研究、災害口腔科学、歯科法医情報学、大規模災害対応および創造的復興の先導的役割」と定義され、今後、文部科学省からは、このミッションに合致する内容について支援がなされることとなります。

また平成28年度から、各国立大学は3つのカテゴリー、すなわち運営交付金の3つの重点支援枠として①地域密着型、②専門分野特化型、そして③海外大学と伍す教育研究型の3つに区分され、その範疇に



において各大学が特色ある戦略を立案し、評価に応じた予算が配分されるようになりました。東北大学は言うまでもなく③であり、「世界リーディング・ユニバーシティ」の実現へ向けての戦略に沿って予算要求をしていくこととなりました。さらに現在、特に重点支援すべき大学としての指定国立大学の選定が進んでおり、東北大学は4つの重点領域、スピントロニクス、材料分野、災害科学、未来型医療を柱として申請し、平成29年6月30日に指定国立大学法人に指定されました。今後ますます、これら先端的大型研究への重点予算配分が進むことが予想されます。以上の流れは、歯学のような小さな学問領域にとってはかなり厳しい環境と言えます。

一方で、我が国の歯学教育において、臨床実習の学生の質の保障としてのスチューデントデンティスト認定制度、国際的な教育基準を保証するための歯学教育認証制度、さらに卒業時の臨床技能を担保する臨床実習修了時の技能評価制度を制定することが、待たなしの状態でも求められています。これら制度を運用するうえでの文部科学省からの支援は期待できず、各大学歯学部・歯科大学がそれぞれ独自の活路を拓いていかなくてはなりません。

東北大学では今、里見総長の任期満了に伴い、次の総長の選考が大詰めを迎えています。来年度からの本学の体制がどのようになるのか予測もつかない近況ではありますが、私ども歯学研究科・歯学部は、世界リーディング・ユニバーシティである東北大学の一翼を担う部局としての矜持を胸に、堅実に教育研究を行っていく所存です。どうか皆様におかれましては、これまで同様のご理解、ご支援を賜りますよう切に願います次第です。

### INDEX

- p1 ・研究科長・学部長のあいさつ
- p2 ・教授に訊く：服部佳功教授  
・海外留学体験記
- p3 ・新任教授紹介  
Ariuntuul Garidkhuu教授  
・PRESS RELEASE  
「震災被害で歯を失うリスク8%増加」
- p.4 ・各種おしらせ

## 超高齢社会の歯科医療と、 加齢歯科学分野の目標

加齢歯科学分野 教授

服部 佳功



—2025年問題、2040年問題などと、超高齢社会の行く末が案じられています。

ドラッカーに言わせると、人口動態はすでに起こった未来なのだそうです。少子高齢化に起因する諸問題は、出生数や死亡数の変化が兆した半世紀以上前に芽生えています。2025年問題や2040年問題も同じです。われわれは医療や介護の分野で、確実に起きる問題への備えを急いでいるわけです。

—どのような備えになるのでしょうか。

地域医療構想はご存知でしょう。人口動態や有病率のデータに基づいて医療ニーズを予測し、地域の事情に応じたサービス提供体制の像を描いてゆく作業を、二次医療圏ごとに行うものです。地域完結型医療への移行に向け、病床の機能分化など、医療資源の効率的活用を進めようというのですね。

—歯科医療の姿が見えませんか。

医科では医療のフリーアクセスにメスを入れようとしています。かかりつけ医にゲートキーパーの機能を担わせ、本当に必要な医療にアクセスできる状況を作るためです。多数の小規模診療所が地域歯科医療を提供している歯科は、かかりつけ機能は充実していますが、機能分化が進んでいず、医療連携や次元医療

の推進は避けられません。治す医療から治し支える医療への転換にも、医科と異なる方法が必要です。

—治し支える歯科医療ですか。

骨太の方針2017に「口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科検診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む」の一文を見つけて驚きました。口腔機能管理の推進は国策なんですね。歯科版治し支える医療の大きな柱になるに違いありません。

—歯科の方向性を教えてください。

たとえば筋力が減って筋力や運動巧緻性が低下し、欠損補綴を行っても食べる機能が回復できない症例が増えています。そうした症例に、他職種連携のもとリハビリテーションなどの介入を行い、機能回復を図るのが今求められている歯科医療です。目的はもちろんQOLの向上ですが、食べる機能を回復できれば栄養状態も改善し、それがフレイルの2次予防、介護予防に繋がると考えられているのですね。

—歯科医療がフレイル予防に寄与できるのですか。

フレイルは、因果が巡り巡って徐々に進行し、やがて生活機能障害、要介護状態へと移行しますので、その循環を止めればよい。サルコペニアの直接の原因である慢性的な低栄養に介入する場合、食べる機能の維持回復が有効な手段となりうるという考えです。

—機能回復が難しいケースも多そうですね。

たしかに、口腔機能を運動に限らず、感覚や分泌にまで拡げて考えてみると、有効なリハビリテーションの方法が乏しいことにすぐ気がきます。だからわれわれは、これまで歯科が用いてこなかった方法を用いることも必要と考えているのです。具体的に検討しているのは、視力低下に眼鏡、聴力低下に補聴器を用いるように、低下した口腔の感覚機能を補う口腔内装置です。

—開発の成算はあるのですか。

…時間と労力で打破できる課題だと思っているのですが。

## 海外留学体験記

東北大学歯学部では、アジア、ヨーロッパ、アメリカなどの大学への学生派遣が盛んに行われています。平成27年度、28年度は、延べ56[\*1]名の学部学生が短期留学派遣プログラムに参加しました。文化も言語も異なる環境で、学生たちはどのように過ごし、何を感じたのでしょうか。

ドイツ・バタボーン大学  
佐藤 友美

春休みの二週間を利用し、移民と社会保障との関係をドイツで学んできました。移民受け入れの先進国であるドイツでの政策を学び、各方面で活躍している方や専門家を交えてのディスカッションを英語で行いました。ドイツの人々はどなたも、まるで母国語のように英語を話せます。日本でも見習いたいと感じました。自己の見聞を広げ、医療従事者としての将来への見識を得ることができた良い経験でありました。

インドネシア・アイルランガ大学  
大河原 愛奈

今回インドネシアのアイルランガ大学へ留学して、多くの貴重な体験をすることができました。現地の生徒と一緒に授業を受けたり、先生方と病院の見学をしたり、1日ホームステイをしたり、休日に友人や先生方と観光をしたり…。最も衝撃的だったのは、ほとんどすべての先生、生徒が英語が堪能であるということ、学びに対する意欲が高いということです。日本はインドネシアに比べ、学生の質では負けていると思いました。この留学は、自分自身の語学、歯学に対する勉強のモチベーションの向上につながりとても充実したものとなりました。



▲ドイツ最終日、カルチャーナイトの様子（佐藤 友美さん）



▲インドネシア・アイルランガ大学での様子（大河原 愛奈さん）

[\*1]複数のプログラムに参加した学生を含む



## 口唇口蓋裂の子供たちのための活動と東北大学歯学研究科でのビジョン

歯学イノベーションリエゾンセンター 教授

**Ariuntuul Garidkhuu**



モンゴル国立医療科学大学歯学部から、客員教授として東北大学歯学研究科へ着任しました。先天性口唇口蓋裂を専門としています。「メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素(MTHFR)遺伝子の遺伝的多形」、「口唇口蓋裂の子供のための言語病理学」、「人工内耳の子供のための聴能学療法(Audio-Verbal Therapy/聴覚言語療法)」が研究の専門分野です。

### 口唇口蓋裂の子供とその家族のための活動

2007年から聴覚障害や口唇口蓋裂の子供たちとその家族のために様々な活動を実施してきました。日本口唇口蓋裂協会(JCPF)の支援を受け、「モンゴル母子健康国民センター」や「モンゴル国立医療科学大学の歯科病院の小児口腔顎顔面外科部門」といった診療施設の設置に尽力し、モンゴル初の口唇口蓋裂の子供のための言語病理学者を養成しました。モンゴルで、先天的に両耳が不自由な子供に対して初めて人工内耳手術が実施された際には、その患者にモンゴルで初めて聴能学療法を実施しました。

2009年には米国口蓋頭蓋顔面裂協会から客員研究員プログラムに選出され、モンゴル国立医療科学大学へ戻ると同時に、モンゴル母子健康国民センターにおいて口唇口蓋裂の子供のための学際的アプローチを始め、モンゴル言語聴覚協会を創立しました。



▲人工内耳の子供に聴覚言語療法を行っている様子

2016年、私の研究チームは、モンゴルにおける聴覚障害分野や言語療法の発展に貢献したことにより、モンゴル政府から「Altan Gadas」アワードを受賞しました。

### 東北大学歯学研究科でのビジョン

東北大学歯学研究科では、口腔顎顔面外科、口唇口蓋裂の子供のための言語病理学および聴覚言語療法、歯科・地域社会の公衆衛生および口腔病理学などの分野の共同研究に取り組みます。また、共同研究者の研究分野に関する共同プロジェクトも提案していきます。関連学術雑誌への共著論文発表に加えて、国際会議、国際学会においても研究成果を発表していきたいと考えています。

2015年1月、モンゴル国立医療科学大学歯学部と東北大学歯学研究科は、両大学間の緊密な連携および学術交流の促進に関する交流協定を締結しました。学生の交換留学や合同シンポジウムの開催などを実施し、2大学間の国際協力関係拡大、強化へ貢献したいと考えています。

日本とモンゴルの協力関係と歯学分野発展に向けて、ともに活動するためのアイデアや提案をお待ちしています。

## PRESS RELEASE

# 震災被害で歯を失うリスク8%増加

～東日本大震災前後の被災者のデータ分析より～

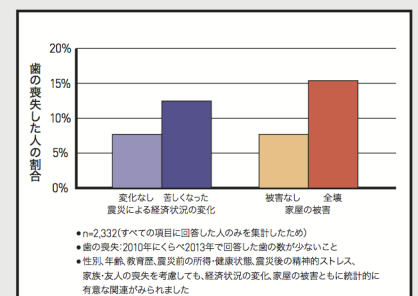
本研究科国際歯科保健学分野の松山祐輔歯科医師、相田潤准教授らのグループは、東日本大震災被災者の追跡調査データを分析し、震災被害により歯を喪失する長期的なリスクが増加することを明らかにしました。

災害の健康への影響は長期におよびます。しかし、被災者の歯の健康状態を被災前後で比較した研究はありませんでした。そこで、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県岩沼市に住む、65歳以上高齢者3,039人の震災前後の追跡調査データを分析し、震災の被害と歯の健康について研究しました。その結果、震災被害が大きい群で歯の喪失が多いという関連が見られました。経済状況の悪化は歯の喪失リスクを8.1% (95% CI: 0.5, 15.7)、家屋の被害は歯の喪失リスクを1.7% [95% CI: 0.2, 3.3] [\*1]増加させていました。被災者はうつやPTSDなどの精神的健康のみならず、口腔の健康も悪化しやすいことが明らかになりました。

本研究成果は、2017年5月4日American Journal of Epidemiologyに掲載されました。

全文は、東北大学大学院歯学研究科・歯学部ホームページのプレスリリース(2017年5月11日掲載)をご参照ください。

■ 震災被害が大きかった人たちで、歯を失う割合が高い



[\*1]95%信頼区間。仮に調査を100回した場合、そのうちの95回は歯の喪失リスクが0.2%～3.3%の間にあるということ。

## NEWS

- ・2017年3月1日、宮城県歯科医師会・東北大学大学院歯学研究科懇談会が開催されました。
- ・歯科生体材料学分野の高橋正敏助教が平成28年度日本歯科理工学会学術賞と論文賞を受賞されました。
- ・2017年6月23日、佐々木啓一歯学研究科長が「社会にインパクトある研究」のシンポジウムで「口から発信する健康づくり」について発表されました。

## 平成29年度前期行事予定

7月5日(水)	大学院入試(10月入学および第1次募集)
7月25日(火)、7月26日(水)	オープンキャンパス
8月1日(火)～8月10日(木)	全日本歯科学生総合体育大会
8月4日(金)	大学探検
8月7日(月)、8月8日(火)	教員免許状更新講習
9月30日(土)、10月1日(日)	東北大学ホームカミングデー
10月26日(木)	東北大学医学部・歯学部、東北医科薬科大学合同慰霊祭
10月28日(土)～12月2日(土)	みやぎ県民大学

## 人事(平成29年3月～平成29年6月)

昇任	3月	山内 健介	准教授	顎顔面・口腔外科学分野
昇任	4月	中村 圭祐	講師	生体適合性計測工学寄附講座
昇任	6月	西村 壽昇	講師	顎口腔機能治療部
採用	4月	原田 章生	助教	分子・再生歯科補綴学分野
採用	4月	岩永 賢二郎	助教	予防歯科学分野
採用	4月	松舘 芳樹	助教	次世代歯科材料工学寄附講座
採用	4月	百々 美奈	助教	予防歯科
採用	4月	江副 祐史	助教	歯科顎口腔外科
採用	4月	神田 直典	助教	歯科顎口腔外科
採用	4月	小宮山 貴将	助教	高齢者歯科治療部
採用	4月	熊坂 晃	助教	周術期口腔支援センター
採用	5月	山田 聡	教授	歯内歯周治療学分野
採用	5月	ガリド アリウントル	教授	歯学イノベーションリエゾンセンター
配置換	4月	多田 浩之	講師	口腔分子制御学分野
配置換	4月	玉原 亨	助教	予防歯科学分野
配置換	4月	天雲 太一	助教	生体適合性計測工学寄附講座
配置換	6月	滝澤 愛子	助教	口腔障害科学分野
辞職	3月	菅野 太郎	助教	分子・再生歯科補綴学分野
辞職	3月	金原 正敬	助教	顎口腔矯正学分野
辞職	3月	樋口 景介	助教	顎顔面・口腔外科学分野
辞職	3月	田中 謙光	助教	歯科顎口腔外科
任期満了	3月	逸見 晶子	助教	顎口腔形態創建学分野
任期満了	3月	佐久間 陽子	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
任期満了	3月	布目 祥子	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
任期満了	3月	米田 博行	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
任期満了	3月	赤塚 亮	助教	次世代歯科材料工学寄附講座
任期満了	3月	富士 岳志	助教	総合地域医療研修センター
任期満了	3月	長谷川 正和	助教	矯正歯科
任期満了	3月	松井 有恒	助教	歯科顎口腔外科

## 新任教授紹介

平成29年5月、山田聡教授が歯内歯周治療学分野、ガリド アリウントル教授が歯学イノベーションリエゾンセンターに着任されました。

## 平成28年度各賞受賞

総長賞	松山 祐輔(大学院)、工藤 葉子(学部)
優秀学位研究賞	瀧 顕 衆
Straumann Award賞	大柳 俊二
アンツプライ・スチューデント・アワード	笹原 庸由、堀井 省吾
モリタ・ハノー補綴学賞	長嶺 宏樹
クインテッセンス賞	工藤 葉子、笹原 庸由
歯学部課外活動賞	奥山 喬介、村上 知弘、畑岡 進

## 第110回(平成28年度)歯科医師国家試験合格率

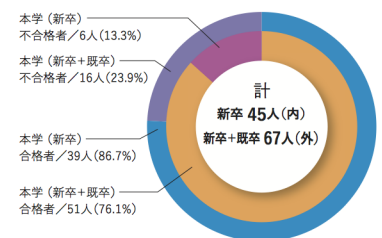
### 本学合格率

新卒 **86.7%**

新卒+既卒 **76.1%**

全国合格率 **65.0%**

全国受験者/3049人 合格者/1,983人



## 歯学研究科 大学院生募集

### 平成30年4月入学

- ・博士課程：42名
- ・修士課程：6名

- ・出願期間(2次募集)  
平成29年11月6日(月)～10日(金)
- ・試験日(2次募集)  
平成29年12月12日(火)

詳細は、歯学研究科ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

### お問い合わせ

東北大学大学院歯学研究科教務係

Tel: 022-717-8248 Fax: 022-717-8279

## みやぎ県民大学

### 知っておきたいお口の病気

- ・会場：東北大学歯学部実習講義棟B1 講義室
- ・開催日程

- 第1回：平成29年10月28日(土) 13:00 - 15:00
- 第2回：平成29年11月11日(土) 13:00 - 15:00
- 第3回：平成29年11月25日(土) 13:00 - 15:00
- 第4回：平成29年12月2日(土) 13:00 - 15:00

募集期間：平成29年10月6日(金) - 10月18日(水)

## 編集後記

前号からだいぶん間が空いてしまいましたが、先生方をはじめ多くの方々のご協力のもと15号を無事にお届けできる運びとなりました。ご多忙の中原稿を寄せてくださった先生方をはじめ、製作にご協力いただきました皆さまに深く感謝申し上げます。歯学研究科は本年度より広報の体制を整備し、強化していく所存でございます。NEWSLETTERに限らず、さまざまな媒体で情報発信をしていきますので今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(記 上杉)

## 編集・発行

### 東北大学大学院歯学研究科広報委員会

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

Tel: 022-717-8244 Fax: 022-717-8279

E-mail: [newsletter@dent.tohoku.ac.jp](mailto:newsletter@dent.tohoku.ac.jp)